

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設 の 名 称	東京エレクトロンホール宮城
指 定 管 理 者 の 名 称	宮城県民会館管理運営共同企業体
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部消費生活・文化課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成18年 4月 ~ 平成21年 3月	指定管理者	宮城県民会館管理運営共同企業体	
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理者	宮城県民会館管理運営共同企業体	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理者	宮城県民会館管理運営共同企業体	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	宮城県民会館管理運営共同企業体
	所在地	仙台市青葉区国分町三丁目3番7号
指 定 期 間	平成26年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	東京エレクトロンホール宮城	
所 在 地	仙台市青葉区国分町三丁目3番7号	
設 置 年 月	昭和39年10月	
根 拠 条 例 等	県民会館条例	
設 置 目 的	県民が文化芸術を創造し、享受する場を提供することにより、文化芸術の総合的な交流及び文化芸術の振興を図り、もって県民生活の向上に寄与するため、設置したもの。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,627,96㎡
	構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上6階地下1階
内 容	大ホール(座席1,590席)、楽屋(特別室を含む)、浴室、大・中・小会議室、和室、展示室、教養室、リハーサル室、奈落、機械室、ボイラー室、駐車場	
開 館 (所) 日	毎月第2水曜日及び年末年始(12月28日~翌年1月4日)を除く日	
開 館 (所) 時 間	午前9時 ~ 午後9時	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運営業務 2 施設の利用許可申請の受付及び許可並びに利用料金の徴収・収納業務 3 文化振興事務等の業務 4 舞台設備の操作・日常点検業務 5 施設全体の維持管理業務 6 その他施設の管理運営に関して、知事が必要と認める業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	利用料金

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
大ホール開館(所)日数	333 日	244 日	294 日	88.3%	120.5%
会議室開館(所)日数	345 日	197 日	221 日	64.1%	112.2%
ミーティングカルチャールーム開館(所)日数	345 日	142 日	184 日	53.3%	129.6%
延べ利用者数	491,300 人	458,425 人	543,948 人	110.7%	118.7%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
大ホール	276,000 人	250,950 人	296,797 人	107.5%	118.3%
会議室	213,000 人	205,607 人	244,734 人	114.9%	119.0%
ミーティングカルチャールーム	2,300 人	1,868 人	2,417 人	105.1%	129.4%
合 計	491,300 人	458,425 人	543,948 人	110.7%	118.7%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	146,931	130,209	146,931	100.0%	112.8%
利用料金収入	136,663	101,093	151,015	110.5%	149.4%
文化振興事業収入	32,369	55,911	34,055	105.2%	60.9%
受託事業収入	0	789	0	#DIV/0!	0.0%
補助金等収入	3,395	1,939	2,645	77.9%	136.4%
その他	691	1,020	946	136.9%	92.7%
収入計 (a)	320,049	290,961	335,592	104.9%	115.3%

(2) 支出

人件費	154,683	147,994	154,844	100.1%	104.6%
施設管理費	104,420	99,890	101,882	97.6%	102.0%
事業運営費	54,853	69,089	52,594	95.9%	76.1%
その他	20,458	726	22,071	107.9%	3040.1%
支出計 (b)	334,414	317,699	331,391	99.1%	104.3%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	-14,365	-26,738	4,201	-29.2%	-15.7%
前期繰越収支差額	-17,172	9,566	-17,172	100.0%	-179.5%
次期繰越収支差額	-31,537	-17,172	-12,971	41.1%	75.5%

※事業計画欄の収入及び支出の数値はいずれも補正後である。

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
	評価		評価		評価	
①管理運営体制	<p>宮城県民会館の管理運営を(公財)宮城県文化振興財団,(株)東北共立,陽光ビルサービス(株)の三者により共同企業体を構成し運営している。</p> <p>○(公財)宮城県文化振興財団…施設の使用許可申請の受付,許可及び利用料金の徴収・収納,文化振興事業のほか会館の管理運営全般 総務管理課6人,企画事業課10人 研修会等 OJT実施のほか公文協主催業務管理研究会やアートマネジメント研修会に参加した。</p> <p>○(株)東北共立…舞台設備の操作,日常点検業務等舞台機構維持管理業務全般 舞台課6人 研修会等 OJT実施のほか公文協主催舞台技術職員研修会,舞台ワークショップに参加した。</p> <p>○陽光ビルサービス(株)…施設の日常清掃,機保安及び警備業務のほか会館の維持管理全般 維持課17人</p> <p>研修会等 OJTのほか危険物取扱講習,高圧ガス保安講習等の法定講習会等に参加した。</p>		<p>同企業体の各構成員がその専門とする分野について業務を分掌し実施しており,計画どおり所期の目的を達成し安定した会館運営が継続している。</p>		<p>共同企業体3者がそれぞれ専門分野を分掌しており,また,研修会等に参加するなど,職員の資質向上が図られるなど,適正な管理運営体制であると認められる。</p>	
人員体制	正規	26人	非正規	13人		
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>1 施設維持管理</p> <p>①維持管理清掃業務</p> <p>②機械警備業務</p> <p>2 設備保守点検</p> <p>①昇降機保守点検</p> <p>②電話交換設備保守点検</p> <p>③舞台機構保守点検</p> <p>④音響設備保守点検</p> <p>⑤舞台照明機器保守点検</p> <p>⑥自動火災報知設備保守点検</p> <p>⑦誘導灯・消火器具等保守点検</p> <p>⑧非常放送設備保守点検</p> <p>⑨電気室高圧盤電気等保守点検</p> <p>⑩空調関係設備保守点検</p> <p>⑪会議室AV機器保守点検</p> <p>⑫駐車場設備保守点検</p> <p>⑬自動扉開閉装置保守点検</p> <p>⑭シャッター設備保守点検</p> <p>⑮ボイラー性能検査受検</p> <p>⑯展示パネル保守点検</p> <p>⑰冷却水配管洗浄業務</p> <p>⑱ピアノ保守業務</p>		<p>共同企業体の各構成員がそれぞれ連携を密にし,修繕等にあたっては,優先順位を付するなど随時的確に対応し,その担当する分野について(より専門性を必要とする業務については外部委託しているが),安定した維持管理業務を適切に実施することができた。</p>		<p>共同企業体3者がそれぞれ専門分野を分掌し,より専門性の高い業務については外部委託することで,設備等の維持管理を適正に行っていると認められる。</p>	
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>1 震災復興プログラム 2事業</p> <p>① 避難訓練コンサート 247人</p> <p>② 東日本大震災メモリアルイベント「想いを未来へ」 1,400人</p> <p>2 人材育成プログラム 8事業</p> <p>① みやぎアートファミリアの日 933人</p> <p>② 日生劇場発「アリスのクラシックコンサート」 624人 ほか</p> <p>3 地域・大学連携プログラム 13事業</p> <p>① 仙台ゴスペルフェスティバルプレコンサート 1,236人</p> <p>② 東日本ジャズサーキットinみやぎ 1,007人 ほか</p> <p>4 鑑賞事業等 4事業</p> <p>① ワンコインコンサート(計2回)のべ1,816人</p> <p>② 笑いの芸術 野村万作・萬斎狂言公演 1,578人</p> <p>上記のほか,各種文化団体の育成(助成金)等を実施した。</p>		<p>今年度は指定管理3期目の2年目として,初年度に引き続き,①震災復興②人材育成③地域・大学連携の3つのテーマを基礎にした文化振興事業を展開した。</p> <p>事業全体では収入・支出とも前年を下回ったもののおおむね事業計画どおりの成果と実績であり,当会館の目的である多様な文化振興事業を実施することができた。</p>		<p>指定管理の基本方針である3つのテーマに沿った事業を展開している。また,新たな企画(避難訓練コンサート)の実施など,概ね事業計画どおり事業を行っている認められる。</p>	

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
④自主事業の実施	—	—	—	—	—
⑤利用者サービスの向上	1 文化振興事業におけるサービス向上 ○ ③に記載したように各種プログラムに沿った文化振興事業を展開することで、利用者にさらに満足していただける文化事業を目指している。 2 貸館事業 ○ 会館使用にあたり使用料の免除制度を設けている。 ○ 貸館の受付業務の電子化をすすめており、効率的な貸館の手続きに向けて準備を始めた(平成28年4月1日よりシステム稼働)。	社会的要請の高まっている当会館の指定管理者の役割を十分認識し、復興支援、人材育成及び地域大学連携を重点においた文化事業を実施している。 貸館事業についても、先進館の事例を参考にしながら、有効な活用方法を模索し、利用者がさらに利用しやすくなるよう検討している。 また、予約管理システムの導入に向けて整備を進めている(平成28年4月1日よりシステム稼働)。	A	歌舞伎などの公演前に、鑑賞入門講座を実施し、演目のみどころ等を解説するなど、創意工夫が見られる。 また、予約管理システムの導入による利用者の利便性向上が求められている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	意見箱の設置のほか、昨年度から利用者懇話会を開催することで、貸館に関する要望を把握し、改善に向けて検討している。 ≪主な要望及び苦情等≫ ① 施設、設備関係 楽屋内の喫煙、B01和室の畳・ふすまの劣化、楽屋の防音対策等 ② 利用関係 劇団四季のロングラン期間が、仙台市民会館の改修時期、日立システムズホール仙台のシアターホールの改修時期と重複、H28年度の改修による休館期間が、日立システムズホール仙台のコンサートホールと重複したことから、施設間で調整してほしいとの要望があった。	昨年度から広く利用者の意見をうかがいながら管理運営の参考にして貸館業務に努めているので、利用者の要望を直接聴取することができる体制を設けた。 利用者からの要望については、改善可能なものは予算を設け施設、設備を整備するよう努めていく。 また、苦情等があった場合は、苦情処理表を作成し、利用者に理解と協力を求めるとともに事務局職員に周知して改善に努めている。	A	館内に設置した意見箱により、利用者の苦情や要望の把握に努めている。また、利用者等から構成されている懇話会を開催し、利用者の意見を踏まえ、会館運営に反映している。	A
⑦安全対策	1 避難訓練 平成27年6月10日(32人参加)、11月11日(77人参加)の年2回消防訓練を実施した。11月の訓練は劇団四季ロングラン公演中であったため、劇団四季と合同で実施した。 また、本年度より観客を対象とした「避難訓練コンサート」を平成27年9月15日(247人参加)に実施した。 大ホール客席内の避難誘導灯改修後、事務局職員に防災監視盤の操作訓練を行った。 2 ソフト面 ○原則として、土日祝日でも非常時に備えて、管理監督者が勤務する体制に改めた。 ○災害に備えて、帰宅困難者用のアルミブランケット(150枚)や乾パン(24缶×8箱)等を備蓄している。	震災以降、日頃から消防法で定められた避難訓練(年2回)をより充実したものにしていくと努めているほか、実際に観客が会場内にいるところで行う「避難訓練コンサート」を本年度より実施。災害に備え、人員体制や設備の充実、安全対策について引き続き検討していく。	A	避難訓練コンサートを開催するなど、管理者側と利用者側が一体となった訓練を実施したことで、会館の防災管理体制の強化が図られている。	A
⑧県民の平等利用	県民会館使用規程に基づき、会館の使用申請について、公益性の高い行事は優先して許可しているが、原則として受付の早い順に許可をしている。	先着順による申請受付を行っているが、1週間前から会館前に並び始める申込者に対し番号札を交付するとともに、催事の妨げにならないよう並び場所等を確保し、安全対策を含めて平等利用に努めている。	A	平等利用について受付方法を工夫するなど、適切に運営されている。	A
⑨個人情報の保護	個人情報については、個人情報保護規程及び実施要領を策定し、個人情報保護管理者を設置し情報の保護に配慮している。 個人情報の記載のある書類は、鍵付きの書庫やキャビネットに収納し、厳重に保管している。	個人情報の記載のある書類、電磁的記録については、移動の際、持ち歩かないことになっており、また使用後は倉庫、キャビネットに保管しているため情報漏えい等の事故もなく事業活動を実施できた。	A	策定済みの個人情報保護規程等に基づき、個人情報の記載のある書類・電磁的記録媒体については、適正に保管・管理されている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり。	利用者数や利用率は順調に上昇している。 特に今年度は劇団四季のロングラン公演があったため、大ホールの利用率の上昇が顕著である。	A	劇団四季のロングラン公演により、高い利用率となった。更なる利用率向上のため、魅力ある公演の企画など、継続的な取り組みが必要である。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」とおり。	今年度は、劇団四季のロングラン公演があったことから利用料金収入が前年比約1,000万円増となったことや、これに伴う鑑賞事業減により事業活動費が前年度比約1,600万円減少したことから、収入計が支出計を約400万円上回った。	A	収支バランスは適正であると認められる。	A
②その他の取組	環境に配慮した会館の管理運営を実施している。 また、昨年度から受動喫煙防止対策として、館内全面禁煙を実施した(昨年度は移行措置として大ホール催事の休憩時間に屋外に灰皿を設置していたが、今年度はこれも廃止した)。	宮城県より「わが社のe行動(eco do!)宣言」の環境配慮実践事業者として認定を受け、継続して環境に配慮した会館の管理や事業活動を実施している。 また、昨年度から全面禁煙にしているが、昨年度は移行措置として大ホール催事の休憩時間に屋外に灰皿を設置していたが、今年度はこれも廃止した。	A	環境配慮実践事業者として、環境配慮行動を通じて管理運営・事業活動を展開した。また、全館禁煙措置をとるなど、利用者の受動喫煙防止に努めている。	A
総合評価		平成26年度から第3期目の指定管理を受け、新たな視点に立脚した安定的な継続運営を行った。震災の経験をもとに、より検討を重ねた安全管理、被災者支援等を行ってきたほか、観客を対象とした「避難訓練コンサート」を実施するなど、より利便性に配慮した貸館事業及び文化振興事業を実施することができた。	A	前年に引き続き、3つの基本方針(震災復興支援、人材育成、地域・大学等連携)を柱に事業展開しており、個性豊かなみやぎの文化芸術の創造と発信に努めている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	重点的課題は、①被災地支援②人材育成③事業の固定化④老朽化が挙げられる。これらの課題に対応するための基本方針として、①復興支援の推進②人材の育成③地域・大学等との連携を掲げ、当会館を拠点とした文化芸術活動を循環的に推進する。④会館の老朽化については、引き続き設置者に整備を要望していく。 また、国や民間企業などの補助金を活用することで、収支バランスに配慮するとともに、安全・安心・快適な施設の管理事業及び老朽化対策に取り組むこととする。	開館から既に50年が経過し、施設・設備が老朽化しており、利用者が快適に利用できるよう計画的な修繕を実施していく。また、人材育成事業や地域・大学等との連携を図るとともに、第2期宮城県文化芸術振興ビジョンを踏まえた心の復興をはじめとする事業の実施など、県の文化振興の拠点として、より一層、その役割を果たしていく。